

# 『資料に学ぶ静岡県の歴史』を編集して

このたび、平成18年度より3か年をかけて進めてまいりました『資料に学ぶ静岡県の歴史』の編集作業が終わり、皆様のお手元にお届けすることができて、大変うれしく思います。

この編集にあたっては、静岡県史編さん収集資料を管理する静岡県立中央図書館歴史文化情報センターに事務局を置き、作業を進めてまいりました。本書を静岡県教育委員会の発行とする主旨から、教育委員会の関係各課・機関より選出された9名の委員をメンバーとする編さん委員会を組織し、学習指導要領とのかかわりや授業に広く活用されるための工夫などについて、多くの貴重な御意見をいただきました。これらの経過を踏まえ、時代ごとの部会やテーマの設定、資料の選定、執筆などについては、現在、県内の中学校や高等学校などの第一線で活躍されている先生方を中心にお願ひしました。本書はこれら多くの方々の御尽力の賜物であり、あらためて心よりお礼申し上げます。

高度経済成長さなかの昭和40年の5月、静岡県立静岡城北高等学校長の式守富司氏を会長とする静岡県高等学校社会科教育研究協議会の編集により、(株)学習研究社から『日本史学習のための静岡県郷土資料集』が発行されました。古くからの貴重な資料に、戦後新たに発見された多くの資料を加えて編集され、随所に郷土の歴史を学ぶ意義が説かれています。授業での活用を考慮した工夫が見られ、編集にあられた先生方の熱意が伝わってきます。当時、高校生であった私自身も、クラス担任の勧めもあってこれを購入し、大いに学問的刺激を受けたことを覚えています。

「人間は何故に歴史を学ぶのか」という問いかけは、歴史を学ぶ子どもたちのみならず、その指導にあたる多くの教師にとっても、古くて新しい課題である、と思います。あるいは、人類普遍の課題ともいえましょう。

さまざまな資料をとおして真理を探究しようとする歴史の学問は、単に古い知識の集積を追い求めるものではなく、いわば「明日をいかに生きるか」ということとも深くかかわっています。そのためには、正しい歴史観に裏打ちされた判断力や決断力が大切であり、今、子どもたちに求められている「郷土を愛する心」なども、地域の歴史や文化を学ぶことをとおして、次第に醸成されていくものと思います。

本県において、多くの教師は、多忙のなかを社会の変化に対応すべく常に自己研鑽に励み、教材研究を重ねて生徒の興味・関心を引き出し、熱心に指導にあたっています。そのなかで、歴史の授業において、『静岡県史』の成果を活用していこうとする動きも高まってきています。

本書は、郷土の歴史と文化の学習の意義を踏まえ、本県ならではの県版カリキュラムにも配慮しながら、静岡県史編さん事業のなかで収集された膨大な資料のなかから貴重な資料を選定し、工夫を重ねて編集されたものです。皆様方の幅広い活用を願ってやみません。

平成21年1月

『資料に学ぶ静岡県の歴史』編さん委員長 天野 忍  
(静岡県立中央図書館長)